

氏名	中 園 博 司
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 1848号
学位授与の日付	平成11年3月25日
学位授与の要件	医学研究科生理系生理学(二)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Relationship between parameters of the urea kinetic model and those of nutritional status in patients on hemodialysis (血液透析患者におけるurea kinetic modelの指標と栄養学的指標との関連についての検討) 第1編 Relationship between parameters of the urea kinetic model serum amino acid levels in patients on hemodialysis (血液透析患者におけるurea kinetic modelの指標と血清アミノ酸レベルとの関連についての検討) 第2編 Serum Leptin Concentrations in Patients on Hemodialysis (血液透析患者における血清レプチン濃度に関する検討)
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 産賀 敏彦 教授 公文 裕巳

学位論文内容の要旨

第1編の要旨

【目的】透析患者において、血清アミノ酸とurea kinetic model(UKM)の指標との関連を調べた。【方法】患者群と健常群の血清アミノ酸濃度を測定した。【結果】アミノ酸濃度とUKMの指標との相関はごく軽度であった。【結語】血清アミノ酸濃度は患者の予後を予測する指標としては適切ではないと考えられた。

第2編の要旨

【目的】透析患者の血清レプチン濃度と臨床的指標との相関、ダイアライザーのレプチン除去能を調べた。【方法】透析前の血清レプチン濃度を測定した。各種透析膜によるレプチンの除去率を比較検討した。【結果】レプチン濃度は、body mass index(BMI)、体脂肪率、血清脂質と相関した。レプチン増加率は男性より女性が高値であったが、糖尿病の有無とは相関しなかった。ポリスルホン膜はレプチンを除去した。【結語】レプチン濃度は体脂肪量の有用な指標であった。レプチンはポリスルホン膜では除去可能であった。

論文審査結果の要旨

第1編の研究は、透析患者において、血清アミノ酸と urea kinetic model (UKM) の指標との関連を調べたもの、第2編の研究は、透析患者の血清レプチン濃度と臨床的指標との相関、ダイアライザーのレプチン除去能を調べたものである。その結果、前者では、血清アミノ酸濃度は患者の予後を予測する指標としては適切ではないということ、後者では、レプチン濃度は体脂肪量の有用な指標になるとの新しい知見を得ている。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。